

2019 年度日本医学会の活動

門田 守人*

Monden Morito

* 日本医学会会長

1. 日本医学会総会

1) 「第 30 回日本医学会総会」開催報告

第 30 回日本医学会総会は、齋藤英彦会頭、松尾清一・柵木充明・郡健二郎・森脇久隆・駒田美弘・今野弘之・星長清隆・佐藤啓二ら 8 名の副会頭、高橋雅英準備委員長の下、中部 8 県（愛知、岐阜、三重、静岡、石川、福井、富山、長野）に所在する 12 の医学部・医科大学と各県医師会が主務機関となり、2019 年 3 月から 4 月にかけて開催した。メインテーマを「医学と医療の深化と広がり ～健康長寿社会の実現をめざして～」とし、4 つの柱「医学と医療の新展開」「社会とともに生きる医療」「医療人の教育と生き方」「グローバル化する日本の医療」からなる基本構想に沿って企画した。

学術集会は、4 月末の大型連休初日から 3 日間、名古屋国際会議場で開催した。各分科会と医師会からのアンケート結果を取り入れながら、4 本柱に沿って分野横断的なプログラムを作成し、約 90 のシンポジウムを企画した。ノーベル賞受賞者 3 名の講演、歯科医師・薬剤師・看護師各会からの講演、産業界からの講演、新設した日本医学会総会奨励賞受賞者による講演なども企画した。また、第 29 回から引き継いだ学生企画や、各分科会からのポスターやビデオによる特別展示も行った。医師・歯科医師・薬剤師・看護師などの有料登録者約 2 万 5 千人に、学部学生や一般市民などの無料登録者を合わせた計約 3 万 7 千人が聴講し、議論した。

市民展示「健康未来 EXPO2019」は、小中学生の春休み期間に合わせて 9 日間、ポートメッセなごやで開催した。一般市民に医療への関心を持ってもらう、子供らに医療者になることへの憧れを持ってもらうことを目標に、基本コンセプトを「みて・ふれて・まなぶ 医のテーマパーク」とし、可能な限り体験型の展示を行った。来場者はのべ 30 万人を超えた。

医学史展は、約 2 ヶ月間、名古屋大学博物館で開催した。「その扉を開いたのは誰か？」をキャッチフレーズとし、日本医学の発展史における重要な歴史的事実を可能な限り実物展示とともに紹介した。約 5 千人が来場した。

その他、プレイベントは、8 県の医学部および医師会が中心となり、各県内で健康講座や医療展示を開催した。名古屋市科学館と共催した特別展「血液ツアーズ 人体大解明の旅」は、特別展示やセミナーを企画し、有料にも関わらず約 8 万人が来場した。ソーシャルイベントは、8 種目を開催し、スポーツ等を通して参加者が交流を図った。

日本医師会、全国都道府県医師会、郡市医師会、各分科会の先生方、政府・地方自治体、産業界、一般市民の皆様、そして開催に携わって下さった全ての方々の多大なるご尽力により、本総会を成功裡に終えることができた。

2) 「第31回日本医学会総会」の準備

第31回日本医学会総会（2023年）は、東京で開催することとし、その準備状況としては、2020年1月10日現在、下記が決定している。

① 役員

会頭	春日 雅人	朝日生命成人病研究所所長 国立国際医療研究センター名誉理事長
副会頭	宮園 浩平	東京大学理事・副学長
	北川 昌伸	東京医科歯科大学医学部長
	天谷 雅行	慶応義塾大学医学部長
	栗原 敏	慈恵大学理事長
	新井 一	順天堂大学学長
	尾崎 治夫	東京都医師会長
準備委員長	門脇 孝	東京大学大学院医学系研究科特任教授

顧問	横倉 義武	日本医師会長
顧問	堀 憲郎	日本歯科医師会会長
顧問	福井トシ子	日本看護協会会長
顧問	山本 信夫	日本薬剤師会会長
顧問	木平 健治	日本病院薬剤師会会長
顧問	渡邊 卓	杏林大学医学部長
顧問	久光 正	昭和大学学長
顧問	冲永 佳史	帝京大学理事長
顧問	林 由起子	東京医科大学学長
顧問	丸 義朗	東京女子医科大学学長
顧問	高松 研	東邦大学学長
顧問	大塚吉兵衛	日本大学学長
顧問	弦間 昭彦	日本医科大学学長
顧問	中釜 齊	国立がん研究センター理事長
顧問	五十嵐 隆	国立成育医療研究センター理事長
顧問	水澤 英洋	国立精神・神経医療研究センター理事長
顧問	高久 史麿	日本医学会連合名誉会長
顧問	矢崎 義雄	東京医科大学理事長

参与	瀬戸 泰之	東京大学医学部附属病院長
参与	永井 良三	自治医科大学学長
参与	野田 哲生	がん研究所所長
参与	大江 和彦	東京大学医学系研究科公共健康医学専攻医療情報システム学分野教授

学術委員長	南学 正臣	東京大学大学院医学系研究科腎臓・内分泌内科教授
総務委員長	齊藤 延人	東京大学大学院医学系研究科長・医学部長
登録委員長	國土 典宏	国立国際医療研究センター理事長

展示委員長 青木 茂樹 順天堂大学放射線科教授
 広報委員長 岡野 栄之 慶應義塾大学生理学教室教授
 式典委員長 冲永 寛子 帝京大学常務理事・副学長
 財務委員長 間野 博行 国立がん研究センター研究所長
 記録委員長 松藤 千弥 東京慈恵会医科大学学長
 男女共同参画委員長 大野 京子 東京医科歯科大学眼科教授
 ソシアルイベント委員長 角田 徹 東京都医師会副会長
 幹事長 山内 敏正 東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科教授
 幹事長補佐 脇 裕典 東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科准教授

② 会期（案）

学術集会：2023（令和5）年4月21日（金）～4月23日（日）（予定）
 学術展示：2023（令和5）年4月20日（木）～4月23日（日）（予定）
 一般展示：2023（令和5）年4月15日（土）～4月23日（日）（予定）

③ 会場（案）

学術集会：東京国際フォーラム、JPタワー、丸ビル、サピアタワー、東京會館
 学術展示：東京国際フォーラム
 博覧会／市民展示：東京国際フォーラム、JPタワー、丸ビル、サピアタワー

④ 主務機関

東京大学医学部、東京医科歯科大学医学部、慶應義塾大学医学部、東京慈恵会医科大学、順天堂大学、帝京大学医学部、杏林大学医学部、昭和大学医学部、東京医科大学、東京女子医科大学医学部、東邦大学医学部、日本大学医学部、日本医科大学、国立国際医療研究センター、国立がん研究センター、国立成育医療研究センター、国立精神・神経医療研究センター、東京都医師会

⑤ 事務局

「第31回日本医学会総会2023」事務局

事務局長 小嶋照郎

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学医学部附属病院中央診療棟2（7F）

Tel.03-5800-9074（直通）、Fax.03-5800-6412

email:isoukai31-gakkai@umin.org

2. 日本医学会幹事会

第3回日本医学会幹事会を、2020年2月28日（金）に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の関係により、書面による決議となった。主な議題は、「2019年度日本医学会年次報告」、「2020年度日本医学会事業計画」、「日本医学会新規加盟学会」等である。

3. 日本医学会定例評議員会

第87回日本医学会定例評議員会を、2020年2月28日（金）に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の関係により、書面決議となった。主な議題は、「2019年度日本医学会年次報告」、「2020

年度日本医学会事業計画」、「日本医学会新規加盟学会」等である。

4. 日本医学会シンポジウム

1) 日本医学会シンポジウム

●第 155 回日本医学会シンポジウム

第 155 回日本医学会シンポジウムは、「超高齢社会における医療の取り組み—ロコモ・フレイル・サルコペニア」をテーマに、2019 年 6 月 29 日（土）、日本医師会館大講堂にて開催した。組織委員：中村耕三（東和病院院長）、大内尉義（国家公務員共済組合連合会虎の門病院院長）、鈴木隆雄（桜美林大学老年学総合研究所長／大学院教授）、参加者数：348 名。

●第 156 回日本医学会シンポジウム

第 156 回日本医学会シンポジウムは、「腸内細菌は健康と疾患の根源か？」をテーマに、2019 年 11 月 16 日（土）、日本医師会館大講堂にて開催した。組織委員：大野博司（理化学研究所生命医科学研究センターチームリーダー・腸管免疫学）、金井隆典（慶應義塾大学医学部教授・消化器内科学）、参加者数：265 名。

2) 日本医学会シンポジウム企画委員会

標記委員会（委員：佐谷秀行、北川昌伸、南学正臣、瀬戸泰之、橋本英樹の 5 名で構成されており、シンポジウムの基本方針、テーマおよび組織委員について企画構成を行っている。今年度は次のとおり 2 回開催した。

第 3 回日本医学会シンポジウム企画委員会（2019 年 5 月 10 日）において、第 156 回シンポジウムのテーマ案について検討がなされた。

第 4 回日本医学会シンポジウム企画委員会（2019 年 10 月 23 日）において、第 157 回シンポジウムのテーマ案について検討がなされた。

3) 日本医学会シンポジウム記録（DVD）

「第 155 回日本医学会シンポジウム」、「第 156 回日本医学会シンポジウム」の全容を、DVD に制作し、関係各位に謹呈した。

また、DVD の内容は、日本医学会ホームページの「Online ライブラリー」の項で映像配信した（URL:<http://jams.med.or.jp/>）。

4) 日本医学会シンポジウムの講演要旨

講演要旨は、日本医師会雑誌に次のとおり掲載した。第 155 回日本医学会シンポジウム「超高齢社会における医療の取り組み—ロコモ・フレイル・サルコペニア」：第 148 巻第 11 号（2019 年 11 月号）、第 156 回シンポジウム「腸内細菌は健康と疾患の根源か？」：第 148 巻第 11 号（2020 年 2 月号）。

5. 日本医学会公開フォーラム

1) 日本医学会公開フォーラム

●第25回日本医学会公開フォーラム

第25回日本医学会公開フォーラムは、「子どものこころのケア」をテーマに2019年6月15日(土)、日本医師会館大講堂にて開催した。組織委員：五十嵐 隆(国立成育医療研究センター理事長)、高橋孝雄(慶應義塾大学医学部小児科教授)、参加者数：243名。

●第26回日本医学会公開フォーラム

第26回日本医学会公開フォーラムは、「がん治療における正しい免疫療法の理解」をテーマに、2019年10月26日(土)、日本医師会館大講堂にて開催した。組織委員長：中釜 斉(日本癌学会理事長)、参加者数：224名。

2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会

日本医学会公開フォーラム企画委員会(委員：跡見 裕、池田康夫、大木隆生、永山悦子、羽鳥裕、南 砂、綿田裕孝)は、日本医学会公開フォーラムの基本方針、テーマおよび組織委員について、企画構成を行う。今年度は、次のとおり2回開催した。

第4回日本医学会公開フォーラム企画委員会(2019年5月10日)において、第26回公開フォーラムのテーマと組織委員長を決定した。

第5回日本医学会公開フォーラム企画委員会(2019年10月23日)において、第27回日本医学会公開フォーラムのテーマと組織委員長を決定した。

3) 日本医学会公開フォーラム記録(DVD)

「第25回日本医学会公開フォーラム：子どものこころのケア」、「第26回日本医学会公開フォーラム：がん治療における正しい免疫療法の理解」のフォーラムの全容を、DVDに制作し、関係各位に謹呈した。

また、DVDの内容は、日本医学会ホームページの「Online ライブラリー」の項で映像配信した(URL:<http://jams.med.or.jp/>)。

6. 日本医学会医学用語管理委員会

日本医学会医学用語管理委員会は、日本医学会の委員会の中で最も歴史が古い委員会である。委員長：脊山洋右(医学中央雑誌刊行会理事長)、副委員長：大江和彦(東京大学大学院教授)、委員：小野木雄三(国際医療福祉大学三田病院教授)、河原和夫(東京医科歯科大学大学院教授)、坂井建雄(順天堂大学大学院教授)、清水英佑(産業医学振興財団理事長)、田中牧郎(明治大学国際日本学部教授)、辻 省次(東京大学大学院特任教授)、森内浩幸(長崎大学大学院教授)、山口俊晴(癌研有明病院名誉院長)の10名により構成されている。

本年度は以下のように2回開催した。第24回医学用語管理委員会(2019年10月30日開催)、第25回医学用語管理委員会(2019年12月17日開催)。

7. 遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ

平成 29 年 9 月に日本遺伝学会が発表した優性遺伝、劣性遺伝などを含む遺伝学用語の改訂の提案については、マスコミで広く取り上げられた。遺伝学に関する用語は、医学、教育、社会において広い分野で関係することから、日本医学会としては十分な検討の上、プロセスを踏んでコンセンサスを形成することが重要と考え、医学用語管理委員会の下にワーキンググループ（WG）を設けて検討を行ってきた。委員は辻 省次（座長、日本神経学会）、柏井 聡（日本眼科学会）、久具宏司（日本産科婦人科学会）、櫻井晃洋（日本人類遺伝学会）、戸田達史（日本神経学会）、小崎健次郎（日本先天異常学会）、梶屋啓志（日本遺伝学会）、森内浩幸（日本小児科学会）、各委員。

第 7 回を 7 月 17 日（水）、第 8 回を 9 月 19 日（木）、第 9 回を 11 月 13 日（水）に開催した。また、分科会に対して 2 回目のアンケートを実施した。これは昨年 12 月に遺伝学用語についての公開シンポジウムを開催したところ、新たな推奨用語の提案があったことによる。また、この過程の中で、本年 7 月に、日本学術会議から「高等学校の生物教育における重要用語の選定について（改訂）」というタイトルの「報告」が公表されたことを受けて日本学術会議との意見交換会を設け、課題検討を行うとともに、今後の連携を進めることが話し合われた。

9 回の WG での検討後、

1. 推奨用語としては 4 文字で「顕性遺伝」「潜性遺伝」とする。従来の表記は、（優性遺伝）、（劣性遺伝）として、括弧書きで表記する。これらの言葉は、遺伝形式を示す言葉であることから、「顕性遺伝（優性遺伝）」「潜性遺伝（劣性遺伝）」と明記することが必要と考えられことから、4 文字の言葉として推奨用語を示す。
2. 医学用語管理委員会に本案を提示し、パブリックコメントを経た上で最終的に決定する。
3. 5 年程度の期間を経た後は推奨用語に移行することとしたい、とする内容の報告書を医学用語管理委員会に提出した。

8. 「奇形」を含む医学用語の置き換えに関するワーキンググループ

患者や家族にとって辛い響きである「奇形」という用語を別の言葉に変える事を検討するため、2019 年 10 月に医学用語管理委員会の下に発足したワーキンググループ（WG）である。

臓器名や病名に続いて「奇形」が用いられている用語について置き換えの提案を検討する。「奇形」を含む用語は様々あり、一律に置き換えられない問題を含んでいることから、WG で十分な議論を行い、分科会や関係する様々な分野の団体にも意見を伺い、コンセンサスを得たいと考えている。

座長：森内浩幸（長崎大学 小児科）、委員：大植孝治（兵庫医科大学 小児外科）、柏井 聡（愛知淑徳大学 視覚科学）、久具宏司（都立墨東病院 産婦人科）、小崎健次郎（慶應義塾大学 臨床遺伝学）、古庄知己（信州大学 遺伝学）、坂本博昭（大阪市立総合医療センター）、滝川一晴（静岡県立こども病院 整形外科）、西本 聡（兵庫医科大学 形成外科）、丹羽隆介（筑波大学 生存ダイナミクス）、梶屋啓志（理化学研究所バイオリソース C）、三木崇範（香川大学 神経機能形態学）で構成されている。委員は議論の内容によりメンバーがさらに加わることもある。第 1 回を 11 月 15 日（金）に開催、第 2 回を 3 月 6 日（金）に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の関係で次年度に延期となった。

9. 日本医学会分科会用語委員会

2019年度日本医学会分科会用語委員会を12月17日（火）に開催した。主な議題は、1. ICD-11の概要について、2. 日本医学会医学用語辞典WEB版のメンテナンス報告、3. 遺伝学用語改訂に関するワーキンググループからの報告、4. 「奇形」を含む医学用語の置き換えに関するワーキンググループからの報告、5. ヒト疾患における異常な臨床表現型を記述する Human Phenotype Ontology について、質疑応答である。

10. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会

医学賞・医学研究奨励賞の選考作業は、日本医学会が日本医師会より委任されているもので、本年度は2019年8月30日（金）に開催された。

委員に加え、本年度は、特例委員として、仲嶋一範（慶應義塾大学医学部解剖学教授）、岡田保典（順天堂大学客員教授）、三谷絹子（獨協医科大学医学部血液・腫瘍内科学教授）、廣村桂樹（群馬大学大学院医学系研究科腎臓・リウマチ内科学教授）、高橋良輔（京都大学大学院医学研究科脳神経内科学教授）、島崎琢也（慶應義塾大学医学部再生医学准教授）、園田康平九州大学大学院医学研究院眼科学教授）、の7氏が加わった。

結果は、医学賞3名、医学研究奨励賞15名が選考され、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において表彰された。なお、医学賞受賞者の論文を日本医師会雑誌（第148巻第9号）に掲載した。

● 2019年度日本医師会医学賞

- ・がん遺伝子 RET と細胞運動制御因子 Girdin の発見と機能に関する研究
高橋雅英／名大・分子病理学
- ・健康寿命に関する疫学研究と健康寿命延伸に向けた提言
辻 一郎／東北大・公衆衛生学
- ・福山型筋ジストロフィーを含めた糖鎖合成異常症の系統的な解明・治療に関する研究
戸田達史／東大・神経内科学

● 2019年度日本医師会医学研究奨励賞

- ・シナプス結合則から大脳新皮質の基本構築を探索
日置寛之（順天堂大・神経生物学・形態学）
- ・生体イメージングによる Central Nervous System Lupus 病態解明と新規治療法開発への挑戦
宮部斉重／日医大・細胞生物学
- ・代謝機構の理解に基づくヒト iPS 細胞由来心筋細胞の作製とその応用
遠山周吾／慶大・循環器内科学
- ・ROCK シグナルによるエネルギー代謝調節機構の解明と糖尿病腎症への治療応用
の場圭一郎／慈恵医大・糖尿病・代謝・内分泌内科学
- ・脳腎連関を介した腎臓保護メカニズムの解明
井上 剛／東大・CKD 病態生理学

- ・ clonal hematopoiesis に注目した自己免疫性疾患の病態解明
寺尾知可史／理化学研究所
- ・ 解糖系酵素に焦点を充てた脳アミロイド血管症の病態解明と治療開発
井上泰輝／熊本大・脳神経内科学
- ・ がん治療と就労の両立支援に関する研究と就労支援ツールの開発
遠藤源樹／順天堂大・公衆衛生学
- ・ 糖尿病とがん：両者を繋ぐ複雑な関係を明らかにするための疫学研究
後藤 温／国立がん研究センター社会と健康研究センター
- ・ オートファジー・リソソーム機能を標的とした難治性糖尿病性腎症に対する新規治療法の開発
久米真司／滋賀医大・糖尿病内分泌・腎臓内科学
- ・ 稀少難治性疾患（POEMS 症候群）に対する治療戦略の構築
三澤園子／千葉大・脳神経内科学
- ・ 肺炎球菌ワクチン導入に伴う肺炎球菌の遺伝子組み換え機構および薬剤耐性菌拡散原因の解明
中野哲志／京大・臨床病態検査学
- ・ 原発性肝癌における革新的治療開発を目指した腫瘍免疫とサルコペニアの網羅的解析
伊藤心二／九大・消化器・総合外科学
- ・ 難治性耳管開放症に対する診断・治療に関する研究
池田怜吉／仙塩利府病院耳科手術センター
- ・ Neurovascular Unit の概念から導きだされる糖尿病黄斑浮腫の病態解明と新規治療戦略
白井嘉彦／東京医大・眼科学

11. 日本医学会加盟検討委員会

日本医学会加盟検討委員会は、13 名の委員により構成。

2019 年度第 1 回日本医学会加盟検討委員会は 2019 年 12 月 12 日（木）に開催した。今年度の加盟申請の 31 学会についての審査を慎重に行い、その結果を日本医学会協議会に提出した。因みにこの審査は、日本医学会加盟検討委員会報告（平成 23 年 7 月）に示された新たな審査基準に基づいて行われている。

12. 日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会

平成 23 年度に発足した委員会で、日本医学会として遺伝情報の取り扱い、検査の質保証、提供体制などに取り組むことを目的としている。委員長：福嶋義光（信州大学医学部遺伝医学部特任教授）、担当副会長：門脇 孝（東京大学医学系研究科特任教授）、委員：五十嵐 隆（国立成育医療研究センター理事長）、苛原 稔（徳島大学医歯薬学研究部長）、鎌谷洋一郎（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）、高田史男（北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学教授）、戸田達史（東京大学大学院医学系研究科教授）、中村清吾（昭和大学医学部乳腺外科教授／大学病院プレストセンター診療科長）、中山智祥（日本大学医学部医学科教授）、吉田輝彦（国立がん研究センター中央病院）の 10 名で構成されている。

13. 「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会

「遺伝子・健康・社会」検討委員会の部会として平成 25 年 3 月に発足し、日本産科婦人科学会との協力体制のもと、主に施設の認定、登録を行ってきた。久具宏司（部会長：東京都立墨東病院産婦人科部長）、澤 倫太郎（日本医科大学女性生殖発達病態学講師）、榊原秀也（横浜市立大学附属市民総合医療センター婦人科診療教授・診療部長）、川目 裕（東北メディカル・メガバンク機構教授）、高田史男（北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学教授）、丸山英二（神戸大学名誉教授）の 6 名により構成されている。

ここ数年、認定施設以外で検査を実施する医療機関が急増し、中には必ずしも適切な対応が行われていない機関もあることから、2019 年に厚生労働省が指針を出すべく検討することになり、現在も検討が行われている。そのため、施設認定・登録部会としての活動は本年度で一旦終了する。

14. 日本医学会利益相反委員会

平成 22 年度に発足した「日本医学会臨床部会利益相反委員会」を、平成 24 年度に「日本医学会利益相反委員会」に改称した。委員長：曾根三郎（徳島大学名誉教授／徳島市病院事業管理者）、委員：石岡千加史（東北大学加齢医学研究所教授）、植木浩二郎（国立国際医療研究センター糖尿病研究センター長）、荻田香苗（日本医学会幹事／杏林大学医学部教授）、寺井崇二（新潟大学大学院医歯学総合研究科教授）、土岐祐一郎（大阪大学大学院医学系研究科教授）、南学正臣（東京大学大学院医学系研究科教授）、浅井文和（日本医学ジャーナリスト協会理事／元朝日新聞社編集委員）、小笠原彩子（南北法律事務所弁護士）、小島多香子（東京医科大学准教授）の 10 名で構成。

本委員会と日本医学会連合研究倫理委員会と日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会と日本医学雑誌編集者組織委員会との第 2 回 4 委員会合同委員会を、2019 年 5 月 30 日（木）に開催した。主な議題は、①各委員長からの挨拶と取り組み状況、②第 5 回研究倫理教育研修会についてであり、その後、第 5 回研究倫理教育研修会を開催した。

2019 年 10 月 30 日（水）に第 19 回委員会を開催した。主な議題は、① COI マネージメントの経緯と 2019 年度の取り組み（1. 日本医学会利益相反委員会の活動経緯、2. 日本医学会利益相反委員会活動計画、3. 再生医療における産学連携の現状について、④日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会との連名による要請書について、⑤日本医学会 COI 管理ガイドライン（一部改定案）について）、②日本医学雑誌編集者組織委員会活動報告等であった。

2020 年 1 月 7 日（火）に 4 委員会委員長合同会議を開催し、第 6 回研究倫理教育研修会のプログラム案の作成等を行った。

2 月 26 日（水）に第 20 回委員会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の関係で、次年度延期となった。

15. 日本医学雑誌編集者組織委員会

日本医学雑誌編集者組織委員会は、平成 20 年に発足した。委員構成は、委員長：北村 聖（東京大学名誉教授／地域医療研究所シニアアドバイザー）、委員：有馬 寛（名古屋大学大学院医学系研究科教授）、遠藤 格（横浜市立大学大学院医学研究科教授）、木内貴弘（東京大学医学部附属病院大学病院医療情報ネットワーク研究センター教授）、北川正路（東京慈恵会医科大学学術情報センター課長）、黒沢俊典（特定非営利活動法人医学中央雑誌刊行会データベース事業部次長）、武田祐子（順天堂大学大学院医学研究科教授）、津谷喜一郎（東京有明医療大学保健医療学部特任教授）、中山健夫（京都大学大学院医学研究科健康情報学教授）、林 和弘（科学技術・学術政策研究所上席研究官）、湯浅保仁（東京医科歯科大学副学長／特任教授）、吉岡俊正（東京女子医科大学前理事長・学長）の 12 名である。

本委員会と日本医学会連合研究倫理委員会と日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会と日本医学雑誌編集者組織委員会との第 2 回 4 委員会合同委員会を、2019 年 5 月 30 日（木）に開催した。主な議題は、①各委員長からの挨拶と取り組み状況、②第 5 回研究倫理教育研修会についてであり、その後、第 5 回研究倫理教育研修会を開催した。

第 24 回委員会を、2019 年 11 月 3 日（火）に開催した。主な議題は、①日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）活動経緯報告、② WPRIM（WHO 西太平洋地域医学情報データベース）/APAME（アジア太平洋医学雑誌編集者会議）2019 年会議報告、③日本医学会利益相反委員会活動報告、④今後の活動について等であった。

また、4 委員会委員長合同会議を、2020 年 1 月 7 日（火）に開催し、第 6 回研究倫理教育研修会のプログラム案の作成等を行った。

16. 研究倫理教育研修会

日本医学会分科会全体で、研究倫理のあり方、研究不正問題の予防と発生時の対応について情報を共有し、各分科会会員の教育啓発に活かすことを目的として、日本医学会連合研究倫理委員会、日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会利益相反委員会合同で、第 5 回研究倫理教育研修会を、「アンケート調査による現状と今後の課題」をテーマとして、2019 年 5 月 30 日（木）に開催した。詳細は、日本医学会ホームページに掲載したので、参照いただきたい。

シンポジウムは、市川家國（日本医学会連合研究倫理委員会委員長）、南学正臣（日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会委員長）、北村 聖（日本医学雑誌編集者組織委員会委員長）、曾根三郎（日本医学会利益相反委員会委員長）の座長の下、下記のプログラムで開催された。

- ・学術データは誰のものかー悪徳雑誌からデータ・シェアリングまでー／有田正規（国立遺伝学研究所生命情報・DDBJ センター長・教授）
- ・「日本医学会 医学雑誌編集ガイドライン 第 2 版」についてー／北村 聖（東京大学名誉教授／地域医療研究所シニアアドバイザー）
- ・臨床研究と COI 管理：国際的な動向を踏まえて／曾根三郎（徳島大学名誉教授／徳島市病院事業管理者）

- ・分科会アンケート調査から見た COI 管理の問題点と今後の課題／土岐祐一郎（大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学教授）
- ・診療ガイドラインのこれまで・これから／中山健夫（京都大学大学院医学研究科健康情報学教授）
- ・本邦における診療ガイドラインの在り方／南学正臣（東京大学大学院医学系研究科腎臓内科学／内分泌病態学教授）
- ・臨床研究法施行をふまえたこれからの臨床研究倫理調査／吉田雅幸（東京医科歯科大学生命倫理研究センター長・教授）
- ・望まれる学会間の倫理指針および学習機会の共通化／市川家國（信州大学医学部特任教授）

17. 日本医学会子宮移植倫理に関する検討委員会

日本医学会子宮移植倫理に関する検討委員会は、日本産科婦人科学会と日本移植学会からの要望を受けて、倫理的な課題や社会的な影響、医学的な安全性を日本医学会として検討するために、2019年4月に新たに発足した。委員構成は、委員長：飯野正光（日本大学医学部特任教授／日本医学会副会長）、委員：会田薫子（東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター特任教授）、市川家國（信州大学医学部特任教授／日本医学会連合研究倫理印会委員長）、苛原 稔（徳島大学大学院医歯薬学研究部長／日本産科婦人科学会倫理委員会副委員長）、加藤和人（大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学教授／日本生命倫理学会理事）、畔柳達雄（日本医師会参与／弁護士）、國土典宏（国立国際医療研究センター理事長／日本移植学会倫理委員会委員長）、霜田 求（京都女子大学現代心理学教授）、柘植あづみ（明治学院大学社会学教授）、平川俊夫（日本医師会常任理事）、町野 朔（上智大学名誉教授）、丸山英二（神戸大学名誉教授）、武藤香織（東京大学医科学研究所公共政策研究分野教授）、横野 恵（早稲田大学社会科学准教授）の14名。

2019年4月3日（水）に第1回委員会、5月28日（火）に第2回委員会、7月26日（金）に第3回委員会、9月11日（水）に第4回委員会、11月20日（水）に第5回委員会、2020年2月5日（水）に第6回委員会、3月27日（金）に第7回委員会を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の関係で、次年度延期となった。

また、2019年4月5日（金）に門田守人日本医学会長と飯野委員長が日本医師会館小講堂にて記者発表会を行い、設置に至った経緯や、今後の方向性等について説明した。

18. 日本医学会総会あり方委員会

日本医学会総会のあり方について、中・長期的な展望で検討する委員会で14名の委員で構成されている。

委員長：飯野正光（日本医学会副会長／日本大学医学部特任教授）、副委員長：森 正樹（日本医学会副会長／九州大学大学院医学研究院教授）、委員：門脇 孝（日本医学会副会長／東京大学大学院医学系研究科特任教授）、池田康夫（早稲田大学特命教授）、今村 聡（日本医師会常任理事）、大槻剛巳（川崎医科大学教授）、春日雅人（朝日生命成人病研究所長）、岸 玲子（日本医学会副会長／北海道大学環境科学研究教育エンター特別招聘教授）、熊ノ郷 淳（大阪大学大学院医学系研究科教授）、小玉弘之（日本医師会常任理事）、齋藤光江（日本医学会幹事／順天堂大学医学部教授）、高橋

雅英（名古屋大学理事）、森山 寛（東京慈恵会医科大学名誉教授）、柳田素子（京都大学大学院医学研究科教授）。

19. 移植関係学会合同委員会

平成4年4月に発足した移植関係学会合同委員会は厚生労働省、日本医師会、関係学会で構成されており、世話人を日本医学会長が務めている。本年度は持ち回り開催で2回開催し、新規移植実施施設を認定した

（10月4日）腎臓移植実施施設 鳥取大学医学部附属病院

（12月17日）小児心臓移植実施施設 国立成育医療研究センター

その他、7月9日に、腎臓移植実施施設の認定取り下げについて（市立旭川病院、埼玉県済生会栗橋病院、NTT西日本大阪病院、奈良県総合医療センター、千葉東病院、横浜市立大学附属病院、土谷総合病院）、脳死肝移植希望者（レシピエント）適応基準の改正についてのお知らせを関係各位宛連絡した。

20. 日本医学会だより

平成元（1989）年度より発行している日本医学会だより（JAMS News）は、本年度、5月にNo.61を、10月にNo.62を発行した（綴じ込みの「日本医学会だより」を参照）。なお、No.58からはオンライン版のみの発行となっているが、今後は「日本医学会 e-News」と名称変更して発行する（不定期）。

21. 情報発信

平成12年10月に日本医学会のホームページを開設した。日本医学会分科会の協力を得て、本会のホームページ（URL:<http://jams.med.or.jp/>）と分科会ホームページをリンクしている。

22. その他

- 1）「日本医学会分科会一覧」を2019年8月に作成、関係各方面に配付した。
- 2）「2020年日本医学会分科会総会一覧」（オンライン版）を2019年12月に作成した。
- 3）「日本医師会年次報告書－令和元年度－」および「日本医師会事業報告」に、日本医学会関係の記事を掲載する予定。